

II 論作文の書き方に慣れよう

1. 問題文は何を書いてもらいたいと言っているか

[問題]

各学校では「確かな学力」の育成に向けて、学力の3つの要素を踏まえた授業づくりに取り組んでいます。あなたは学級担任として、家庭との連携を図り、どのような授業づくりをめざしますか。具体的な取組や工夫について、1000字以内であなたの考えを述べなさい。

問題文を繰り返し読み、正確に読み取ること。そのうえで出題者の意図にそって必要なことを必要なだけ、端的にしかも丁寧に論述する。即ち「問題に正対する」ということである。どんなに立派な論文でも問題の意図とずれていたのでは合格論文とはならない。

(1) キーワードをとらえて問題文を受け止める

各学校では「確かな学力」の育成に向けて、学力の3つの要素を踏まえた授業づくりに取り組んでいます。あなたは学級担任として、家庭との連携を図り、どのような授業づくりをめざしますか。具体的な取組や工夫について、1000字以内であなたの考えを述べなさい。

- ① 出題者の問いの中心課題……「確かな学力」の育成に向けて、学力の3つの要素を踏まえた授業づくりが重要だが、現場では必ずしも十分に実践できていないと言っている。
- ② 「学力の3つの要素」の根拠はどこにあるのか想起しておく。

【学力の3要素】 1 基礎的・基本的な知識・技能の習得、
2 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等、
3 学習意欲

(教育基本法・学校教育法 第30条第2項)

- ③ 課題を肯定的に受け止める……「私も重要だと考える（ので以下のように取り組む）」というように問題文を肯定して、その後の論を展開する。
- ④ 具体的な取組は「学級担任として」「家庭との連携を図り」を要件として書くこと。
- ⑤ 「授業づくり」を「めざす」……めざす授業の姿をイメージしてその手順を述べる。

【論述の概要】

「確かな学力」の育成が大きな課題となっているが、そのためには学力の3つの要素を踏まえた授業づくりが重要である。私は学級担任としてこれを実現するために、家庭との連携を図り次の2点を柱とした授業づくりをめざして取り組む。

(2) 論述の条件を必ず守る

- ・「1000字以内で……」と指定されたときは、1000字以下で少なくとも800字以上で書くこと、これは実際の文字数ではなく、行数でカウントする。（1行35字の場合、24行～29行）
- ・「具体的な取組や工夫について……」のように「具体的な」とは、例えば教育実習等の事例を書こうとすると長文になりがちである。要点を2～3行で表現できるようにまとめておくこと。

2. 論文の構成の基本型を身につける

800字～1000字の論文を40分～70分で書くためには、途中で筆を止めずに書けるようにしておかなければならない。初めの5分～10分で論文の構想を練り、残りの時間で一気に書き進め、最後に推敲の時間を確保できるようにする。

そのためには、論文の基本型にそって論旨の一貫した論述ができるように練習を積むことである。パターン化した論文形式からの脱皮を図るのは、基本型に十分習熟してからでも遅くない。

ワークシート3の論作文構成用紙を活用しよう。

(1) 序論、本論、結論

・序論（前文）

序論では、問題文を受け止めて、その背景や解決すべき課題を述べ、その解決のために具体的に述べようとする本論の観点を示し、序論を読んだだけでも論文の概要が分かるように論述する。

・本論（本文） [本論Ⅰ、本論Ⅱ]

800字～1000字の論作文では、本論を2本の柱で書くのが望ましいと考えられるが、600字では柱は1本がよい。

序論で挙げた観点到にそって、2本の柱の中をさらに3つに分けて、[論]、[例]、[策]で書く。

[論]理論……この柱が課題解決に有効であるという理論的背景

[例]事例……その理由として、例えばこのような実践事例がある

[策]方策……だから自分は〇〇の具体的実践により課題の解決を図る

・結論（まとめ）

結論では、問題文を受けて2本の柱で力強く実践すると述べるとともに、さらに課題解決の第3の観点も考えられることを述べて、多面的な考えがあることを示す。そして、最後に自分が教職に就いた場合の夢や決意を述べて論文を締めくくる。

（参考文献：論作文研究会編 日本教育大学院「合格論作文」）

(2) 文章構成を別の観点で理解することもできる

文章構成の例について練習をするが、形に縛られ過ぎて論旨が崩れてはならない。そもそも論作文は「現場ではこのような教育課題がありますが、あなただったらどのように解決しますか。」という問い掛けに対する自分なりの主張を書くのである。

①序論 ②本論Ⅰ ③本論Ⅱ ④結論 という文章構成を別の観点で理解してみよう。

- ① これは解決すべき重要課題である。その解決のための私の主張はこうである。
- ② 何故かというところ考える。根拠となる体験や事例もある。だから具体的にこうする。
- ③ 一方こうも考えられる。理由はこうであり、その裏付けもある。だからこう主張する。
- ④ 私はこのような課題解決への希望と信念をもって教職に就きたい。

※ このように、問題文の問い掛けにきちんと答えて、内容の濃い論文であればそれでもよい。

（白亜の会 木村夏子、上原行義）